



2008年11月1日発行
第197号
発行所
特定非営利活動法人
全国骨髓バンク
推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者:中野勝博
http://www.marow.or.jp/
E-mail:office@marow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

全国協議会第5回役員選挙告示

全国協議会の第5回役員選挙に関して、中野勝博理事長より6名の選挙管理委員が委嘱され、さる10月19日に第1回の選挙管理委員会が開催されました。
互選により二見茂男氏を委員長に選出されたのち、役員数の確認、選挙日程の検討が行われ、10月20日に第1回選挙告示が行われました。

第5回役員選考のための第1回選挙告示

2009年度および2010年度役員を選考を行います。「役員選考規程」並びに「選挙細則」に基づき下記の通り告示します。

2008年10月20日
選挙管理委員長 二見茂男

- 1. 選挙管理委員会**
委員長：二見茂男
副委員長：小野田守男
委員：山口昭一、山下晋司、坂田浩章、黒川紀子 以上6名
- 2. 役員の任期**
2009年7月1日～2011年6月30日
- 3. 役員の数**
会長1名、副会長5名、理事18名(正会員の推薦を要する理事9名、推薦を要しない公募による理事9名)、監事3名
推薦を要する理事の地区定数
北海道1名、東北1名、関東甲信越2名、東海北陸1名、近畿1名、中四国1名、九州2名、計9名
- 4. 選挙日程**
第1回告示：2008年10月20日(月)
*立候補受付開始、届出書等配布
立候補届出締切：2009年1月20日(火)

第2回告示：2009年1月26日(月)
*立候補者最終発表
投票期間：2009年3月2日(月)～3月16日(月)
開票日：2009年3月22日(日)
開票結果発表：2009年3月23日(月)

- 5. 立候補者への注意事項**
 - (1)必ず所定の届出書に記入して提出して下さい。届出書は選挙管理委員会事務局(TEL:03-3356-8217 FAX:03-3356-8637)に請求するか、ホームページ(http://www.marow.or.jp/)からダウンロードして下さい。
 - (2)届出書に自署押印の上、推薦書、立候補者の顔写真を同封の上、必ず簡易書留で郵送して下さい。
 - (3)立候補者に必要な推薦者(団体)の数は、会長7団体以上、副会長5団体以上、監事3団体以上、推薦理事3団体以上です。但し、公募理事に推薦者は不要です。
 - (4)推薦書は、所定の用紙に推薦団体に記入してもらって下さい。用紙は選挙管理委員会事務局に請求するか、ホームページからダウンロードして下さい。

保健文化賞受賞で 皇居に参内

本紙195号でお知らせしましたが、このたび大谷会長が保健文化賞を受賞いたしました。贈呈式に臨んだ大谷会長よりメッセージが寄せられましたので、ご紹介いたします。

10月8日、帝国ホテルにて第60回保健文化賞を頂戴して参りました。

この賞は、結核が流行している頃には、結核予防に努めた方が、新生児がなかなか育たなかった時代には、母子保健の担い手・保健師さんが、発達障害が解明されてきた昨年には精神科医が、と時代、時代に沿った中で受賞者が決定していたようです。

そんな中、骨髓バンクが受賞できたことは、時代の流れにのっているのだと実感したひとときでした。

来賓のご挨拶の中にこんなお話がありました。「受賞者の皆さんの顔の向こうに何千人、何万人という方々の希望や喜びが見えます」と。とても胸が熱くなりました。

翌9日には皇居への参内、そして、天皇皇后両陛下への

拝謁の儀にも出席させていただきました。

天皇皇后両陛下への拝謁の儀を賜る一般の賞は他にはない、とのことでつくづく名誉なことだと恐れ入りました。

拝謁の儀へは配偶者と一緒に、とのことで、夫も仕事を休んでくれました。しかもタイムリーに9日は夫の44回目の誕生日。日頃、夫には何かとガマン?を強いているので、とてもよい誕生日プレゼントになった……と勝手に思っている私でした。

これからもこの賞に恥じないように、みんなでさらなる活動ができれば、と思っております。



第60回 保健文化賞 贈呈式

マリンスタージアムで チャリティオークション開催

7月16日に千葉マリンスタージアムにて「骨髓バンク支援ナイター」が実施されましたが(本紙194号で既報)、その際に、千葉ロッテマリンスターズの選手のみなさんからサイン入りグッズを沢山頂戴しました。

マリンスターズのHPで事前告知した上で、9月14日と27日の試合開始前に、チャリティオークション大会が開催されました。

両日ともデイゲームで試合開始は13時でしたが、スタジアムには9時過ぎから続々とファンのみなさんが到着。ファン向けのイベントがあちこちで開催される中、オークション開始時刻には特設ステージ前に黒山の人数も実施され、6名のドナー登録がありました。

ファンを大切にしようとするマリンスターズの心意気とそれに応えるファンのみなさんの熱い思いに圧倒された。2日間の間となりました。

なお、球場に足を運べない遠方のファンの方々も参加できるよう、次回は11月初旬に、ヤフーチャリティオークションで開催される予定です。



今回東急沿線での様子をお話し、中目黒駅におじゃましてきました。

東急東横線と東京メトロ日比谷線が乗り入れるこの駅は、1日に20万人近い乗降客でにぎわう目黒区の中目黒駅です。

ラッシュアワーが一段落した平日の午前10時過ぎに伺いましたが、途切れることなく乗降客が通り過ぎる改札口付近に設置されたチャンスを見逃し！新しくなったポスターも、乗り越し計算を行う精算機横の掲示コーナーに貼付されていました。

駅構内は忙しんが、駅員さんの窓口近くでの設置でもあり、必ずや目を留める方もいらっしゃるはず。

新臓器移植対策室長と面談

去る7月25日、厚生労働省健康局疾病対策課臓器移植対策室長の原口真氏が異動となり、8月2日、峯村芳樹氏が後任に就かれました。これを受け10月6日、全国協議会の菅事務局長と黒川事務局員が厚生労働省を訪問、ご挨拶して参りました。

まずは全国協議会や全国のボランティアの活動の様子を伝え、公的骨髓バンク事業の開始とそ

の後の展開において、ボランティアがどのように関わってきたいか、その実態を紹介させていただきました。

また、昨年公表された将来像検討会議報告書を紹介し、全国協議会が考える患者の視点に立った造血細胞移植事業のあり方についても説明いたしました。

峯村新室長は「骨髓バンクと



公共広告機構の活動が終了した現在、東急沿線のすべての駅で同じ光景が繰り返されています。果だるうなあと実感した1日でした。



推進月間に 東急グループでも 啓発活動

2007年春から啓発活動にご協力いただいている東京急行電鉄(株)を始めとする東急グループですが、骨髓バンク推進月間でもある10月は、全国各地の施設でポスターの掲示やチャンスの設置に取り組んで下さっています。

心からのご寄付に 感謝申し上げます

9月21日～10月20日

骨髄バンクを支援する会 (いわき)

現金	300,000円
株式会社コーポレーション	現金 10,000円
飯島孝枝	現金 2,240円
塩谷圭	現金 1,000円
山田康博	現金 9,880円
大鹿静子	現金 5,000円
鈴木純子	現金 1,340円
永島ふさ子	現金 3,000円
飛田行康	現金 5,000円
匿名	現金 5,000円
匿名	現金 7,500円
匿名	現金 4,500円
松尾元春	現金 10,000円
イオン(株)ジャスコ東雲店	現金 4,880円
菊水酒造株式会社	現金 500,000円
荒井博	現金 2,000円

●白血病患者支援基金

現金	168,463円
株式会社コーポレーション	現金 10,031円
メディコ21 古川店	現金 11,602円
市村歯科クリニック	現金 3,520円
鎌倉屋	現金 20,000円
アララホヌア フラハラウ	現金 15,636円
藤東洋彫刻製作所	現金 7,471円
磯屋食堂	現金 6,180円
自遊空間札幌伏古店	現金 15,000円
山法師	現金 4,090円
山形青年会議所	現金 3,440円
尚千曲堂印舗	現金 7,166円
安東慎次	現金 305,825円
かざか証券(株)	現金 6,582円
かざか証券講演会募金	現金 17,520円
北海道パークゴルフCYUNCTUN会	現金 9,300円
北海道パークゴルフ大会募金	現金 300,000円
骨髄バンクを支援する会 (いわき)	現金 805,500円
マリスタジアムチャリティーオークション	現金 73,000円

●佐藤きち子患者支援基金

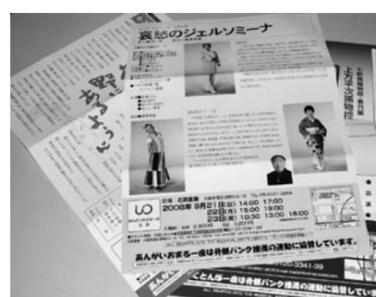
現金	32,675円
高田亜沙美	(敬称略)
第5回 カッペロックフェスティバル	

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

「推進月間での開催だし、ドナー登録会もやったら？」と気楽に言われ、気楽に受けました。血液センターの方も快くパスの手配をしてくださり、その年限りかな？と思っていたところ、主催者さんより「毎年で結構です。」とお達し。皆さんのお力でお伝え出来たらと思います。

静岡 (山本)



声 明 書

私たち「公的骨髄バンクを支援する東京の会」は、この度、財団法人骨髄移植推進財団(以下財団という)の前常務理事堀之内敬氏から、会報「東京の会通信」167号2006年3月1日号編集者雑記の記事および177号2007年1月1日号掲載の遠藤允氏投稿文の虚偽の記事により、同氏を誹謗中傷したとして、編集者雑記執筆者および遠藤允氏と連帯して損害賠償金1千万円の支払、東京の会ホームページ掲載の167号、177号の下線部分の削除および裁判費用の当会負担とする判決ならびに仮執行を求め訴えを受けました。

同氏は2004年8月財団常務理事に就任しましたが、同氏の就任以降、財団職員の退職者が急増し、2005年度は退職者数がピークに達し、その中で職員達は自らの権利を守るため、急速ユニオンを結成するなど混乱が生じました。

白血病など生命にかかわる難病患者さんの救命の仕事をする財団職員が落ち着いて仕事ができず、次々と退職していく事実、職員の意欲と業務習熟度等の低下に危機の念を抱いた当東京の会は原因について財団理事長宛質問状を提出し、問題の解決を求めました。

当会会報167号当該記事は、その最中に国会予算委員会で触れられた質疑を議事録から採録したものであり、虚偽の記事ではありません。また、177号の投稿記事は2005年に結成されたユニオンの執行委員長に就任し、その後2006年5月に契約更新を打ち切られた遠藤允氏が、身近にあって体験把握していた前常務理事の勤務状況、行動などを執筆された投稿文を当会として採用掲載したものです。

当会は公的骨髄バンクを支援することを通して財団の骨髄移植事業が円滑に推進され、一人でも多くの血液難病の患者さんの救命が行われること、それに協力されるドナーさんの骨髄提供が無事故で安全に行われることを会の目的に活動しています。財団にときとして耳障りな質問状を提出し、会報に同様の記事を掲載したりするのもそれ以外の目的はなく、財団の役員職員の皆さんが一体となって高い意識を持って業務を推進されることを期待するためです。

今回の訴えについては容認できるものでなく、真実はなにもものにも敗れることはないことを確信し、冷静沈着に対応していく所存です。

ご関係各位におかれましては絶大なるご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2008年 10月

公的骨髄バンクを支援する東京の会
代表 三瓶和義

(編集部注: 原文のまま掲載)

**財団前常務理事が東京の会を不当提訴
全国協議会として支援を決定**

骨髄移植推進財団前常務理事堀之内敬氏が、全国協議会加盟団体である「公的骨髄バンクを支援する東京の会」を名誉毀損で東京地裁に提訴しました。提訴の内容は別掲の東京の会による「声 明 書」とおりです。東京の会は、提訴は不当でありボ

ランテア活動と言論の自由を抑圧しようとするものだと断固戦うことを決意し、全国協議会に対して、支援の要請を行いました。全国協議会理事会は、東京の会の要請を受け、できる限りの支援・協力を行うことを確認しました。東京の会では、

次回公判予定.. 11月10日(月) 11:00 東京地裁第721号 法廷

緊急支援カンパ .. ゆうちよ 銀行 001330-2-318337 名義: 公的骨髄バンクを支援する東京の会

裁判費用の緊急カンパや裁判の傍聴呼びかけなどを行っています。各地団体および全国のボランティアの皆さん、ぜひご支援をお願いします。

「推進月間での開催だし、ドナー登録会もやったら？」と気楽に言われ、気楽に受けました。血液センターの方も快くパスの手配をしてくださり、その年限りかな？と思っていたところ、主催者さんより「毎年で結構です。」とお達し。皆さんのお力でお伝え出来たらと思います。

静岡 (山本)

9月27日、高山市民文化会館にて「岐阜骨髄献血希望者を募る会」高山支部が、地域のボランティアに支えられて15周年を迎えたのを記念して、映画「いのちのあさがお」の上映・講演会・パネル展示などを開催しました。

7歳で息子の光祐君を白血病で亡くし、全国で骨髄バンク普及のために活動されている丹後まみこさんを迎え、「わが子からの贈り物」と題して、光祐君

の残してくれた数々のエピソードや闘病の様子などを話され、参加者の誰もが、耳を傾けながら目頭を熱くされていました。

講演会では「命のアサガオ」を大切に育てた高山市立西小の児童たちから、アサガオの種や手紙を丹後さんに贈り、主題歌を皆で歌いました。

また、同市宮中の生徒たちは「庭に咲いたアサガオから、精いっぱい生きることとどういうことかを考え、光祐君の命に触れた気がした」と感想が述べられました。

「命のアサガオ」を通じて、命の大切さと骨髄バンクに対する理解を深める記念講演となりました。(中野)

◆日本骨髄バンクの現状(平成20年9月末現在)

	8月	9月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,617	3,409	319,731	405,152
患者登録者数	234	207	2,324	25,973
骨髄移植例数	77	102	-	9,776
20歳未満ドナー登録者	-	128	8,309 ¹⁾	-
51歳以上ドナー	181 ²⁾	77 ³⁾	12,185 ⁴⁾	-

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
1) 17年3月～ 2) 51歳以上ドナーの延長数
3) 51歳以上ドナーの新規登録数 4) 17年9月～

あながいおまる一座・さくらとんぼ一座 (大阪府大阪市)

劇団の案内チラシのヨコに募金箱が置かれてあります。きつかけは、座長の知人の奥

様は白血病で亡くなられ、その後彼は、骨髄バンクの重要性をあちこちで訴えておられました。そして、劇団のチラシに「骨髄バンク推進の運動に協賛をします」の一文を入れ、募金箱を置くことになったのです。

役者たちは食べることもおぼつかない状況で、なかなか募金箱もいっぱいにならず、恥ずかしいのですが、それなりの協力をと、時間をかけて続けてまいります。

きつかけになった彼が、5年ほど前に、チラシに入れた文を見て、「これだけでも嬉しい」と涙をこぼしたことが思い出さ

「推進月間での開催だし、ドナー登録会もやったら？」と気楽に言われ、気楽に受けました。血液センターの方も快くパスの手配をしてくださり、その年限りかな？と思っていたところ、主催者さんより「毎年で結構です。」とお達し。皆さんのお力でお伝え出来たらと思います。

静岡 (山本)

9月27日、高山市民文化会館にて「岐阜骨髄献血希望者を募る会」高山支部が、地域のボランティアに支えられて15周年を迎えたのを記念して、映画「いのちのあさがお」の上映・講演会・パネル展示などを開催しました。

7歳で息子の光祐君を白血病で亡くし、全国で骨髄バンク普及のために活動されている丹後まみこさんを迎え、「わが子からの贈り物」と題して、光祐君



「推進月間での開催だし、ドナー登録会もやったら？」と気楽に言われ、気楽に受けました。血液センターの方も快くパスの手配をしてくださり、その年限りかな？と思っていたところ、主催者さんより「毎年で結構です。」とお達し。皆さんのお力でお伝え出来たらと思います。

静岡 (山本)

9月27日、高山市民文化会館にて「岐阜骨髄献血希望者を募る会」高山支部が、地域のボランティアに支えられて15周年を迎えたのを記念して、映画「いのちのあさがお」の上映・講演会・パネル展示などを開催しました。

7歳で息子の光祐君を白血病で亡くし、全国で骨髄バンク普及のために活動されている丹後まみこさんを迎え、「わが子からの贈り物」と題して、光祐君

の残してくれた数々のエピソードや闘病の様子などを話され、参加者の誰もが、耳を傾けながら目頭を熱くされていました。

講演会では「命のアサガオ」を大切に育てた高山市立西小の児童たちから、アサガオの種や手紙を丹後さんに贈り、主題歌を皆で歌いました。

また、同市宮中の生徒たちは「庭に咲いたアサガオから、精いっぱい生きることとどういうことかを考え、光祐君の命に触れた気がした」と感想が述べられました。

「命のアサガオ」を通じて、命の大切さと骨髄バンクに対する理解を深める記念講演となりました。(中野)

「推進月間での開催だし、ドナー登録会もやったら？」と気楽に言われ、気楽に受けました。血液センターの方も快くパスの手配をしてくださり、その年限りかな？と思っていたところ、主催者さんより「毎年で結構です。」とお達し。皆さんのお力でお伝え出来たらと思います。

静岡 (山本)

9月27日、高山市民文化会館にて「岐阜骨髄献血希望者を募る会」高山支部が、地域のボランティアに支えられて15周年を迎えたのを記念して、映画「いのちのあさがお」の上映・講演会・パネル展示などを開催しました。

7歳で息子の光祐君を白血病で亡くし、全国で骨髄バンク普及のために活動されている丹後まみこさんを迎え、「わが子からの贈り物」と題して、光祐君

の残してくれた数々のエピソードや闘病の様子などを話され、参加者の誰もが、耳を傾けながら目頭を熱くされていました。

講演会では「命のアサガオ」を大切に育てた高山市立西小の児童たちから、アサガオの種や手紙を丹後さんに贈り、主題歌を皆で歌いました。

また、同市宮中の生徒たちは「庭に咲いたアサガオから、精いっぱい生きることとどういうことかを考え、光祐君の命に触れた気がした」と感想が述べられました。

「命のアサガオ」を通じて、命の大切さと骨髄バンクに対する理解を深める記念講演となりました。(中野)

の残してくれた数々のエピソードや闘病の様子などを話され、参加者の誰もが、耳を傾けながら目頭を熱くされていました。

講演会では「命のアサガオ」を大切に育てた高山市立西小の児童たちから、アサガオの種や手紙を丹後さんに贈り、主題歌を皆で歌いました。

また、同市宮中の生徒たちは「庭に咲いたアサガオから、精いっぱい生きることとどういうことかを考え、光祐君の命に触れた気がした」と感想が述べられました。

「命のアサガオ」を通じて、命の大切さと骨髄バンクに対する理解を深める記念講演となりました。(中野)

各地のたより

写真を添えてお寄せください。

「推進月間での開催だし、ドナー登録会もやったら？」と気楽に言われ、気楽に受けました。血液センターの方も快くパスの手配をしてくださり、その年限りかな？と思っていたところ、主催者さんより「毎年で結構です。」とお達し。皆さんのお力でお伝え出来たらと思います。

静岡 (山本)

9月27日、高山市民文化会館にて「岐阜骨髄献血希望者を募る会」高山支部が、地域のボランティアに支えられて15周年を迎えたのを記念して、映画「いのちのあさがお」の上映・講演会・パネル展示などを開催しました。

7歳で息子の光祐君を白血病で亡くし、全国で骨髄バンク普及のために活動されている丹後まみこさんを迎え、「わが子からの贈り物」と題して、光祐君

の残してくれた数々のエピソードや闘病の様子などを話され、参加者の誰もが、耳を傾けながら目頭を熱くされていました。

講演会では「命のアサガオ」を大切に育てた高山市立西小の児童たちから、アサガオの種や手紙を丹後さんに贈り、主題歌を皆で歌いました。

また、同市宮中の生徒たちは「庭に咲いたアサガオから、精いっぱい生きることとどういうことかを考え、光祐君の命に触れた気がした」と感想が述べられました。

「命のアサガオ」を通じて、命の大切さと骨髄バンクに対する理解を深める記念講演となりました。(中野)

の残してくれた数々のエピソードや闘病の様子などを話され、参加者の誰もが、耳を傾けながら目頭を熱くされていました。

講演会では「命のアサガオ」を大切に育てた高山市立西小の児童たちから、アサガオの種や手紙を丹後さんに贈り、主題歌を皆で歌いました。

また、同市宮中の生徒たちは「庭に咲いたアサガオから、精いっぱい生きることとどういうことかを考え、光祐君の命に触れた気がした」と感想が述べられました。

「命のアサガオ」を通じて、命の大切さと骨髄バンクに対する理解を深める記念講演となりました。(中野)